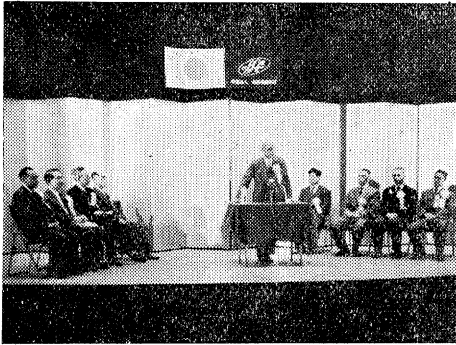


# 自動車技術会昭和 32 年度春季大会および創立十周年記念式

昭和 32 年度春季大会が 5 月 10, 11, 13 日の 3 日間にわたり開催され、創立十周年記念式が 10 日に举行された。

【第 1 日】 5 月 10 日 (金) 午前 9 時より山葉ホール (銀座) において開催された。

1. 映 画 文部省提供の「南極観測」(16m/m カラー、濠州製作) を上映した。
2. 第 11 回通常総会 本人出席 85 名、委任状 1,120 名で総会成立し、竹崎会長議長となり下記の議事を行った。



竹崎会長挨拶

① 昭和 31 年度事業報告の件

吉城常任理事より一般事業報告があり、ついで小林中央技術委員長より、委員会活動について、報告があった。

② 昭和 31 年度決算の件

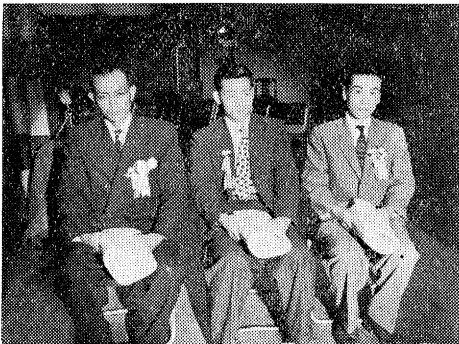
小沢会計担当理事より決算報告あり、ついで鍋谷監事より決算書の確認の報告があり承認された。

③ 昭和 32 年度予算の件

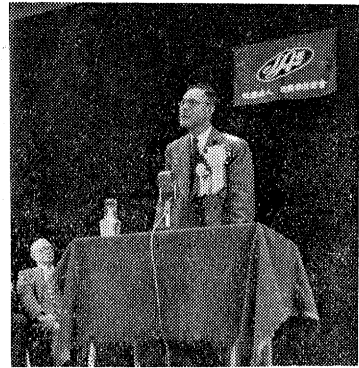
小沢会計担当理事より説明があり、承認された。

3. 第 7 回自動車技術会賞授賞式

川田正秋委員長の審査経過報告につづき浅原名誉会員の挨拶があり、下記の会員に賞状、記念品、特別金バッヂならびに浅原賞として金ばい又は銀ばいが贈られた。



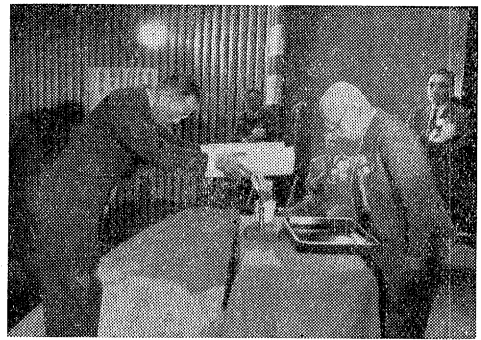
第 7 回自動車技術会賞受賞者  
(左より 三井寿雄、佐藤敏一、出雲正敏の 3 氏)



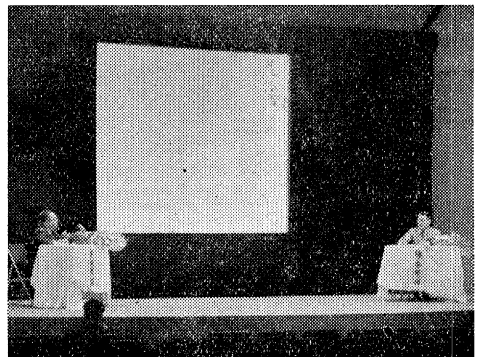
浅原名誉会員挨拶

- 1) 「電解加熱法の研究」(論文)  
三井寿雄君 (名工技試)  
佐藤敏一君 ( " )
  - 2) 「はすばかさ歯車用刃物の製作法」  
出雲正敏君 (新三菱京都)
4. 創立十周年記念式

竹崎会長挨拶の後、吉城常任理事より 10 年の経過の報告があり、ついで、通商産業大臣、運輸大臣、文部大臣および自動車業界代表として浅原工業会会長の



授賞式 (会長より授賞)



十周年記念家族慰安会  
対談 左より 吉城、桶谷の両氏

賞 状

1. 電解加熱法の研究 (論文)

工業技術院名古屋工業技術試験所  
第 1 部長 三井寿雄君  
主任研究員 佐藤敏一君

右は新しい電解加熱法につき加熱に影響する重要な事項について、広汎な基礎的研究を行い、これを工業的に応用するための方法および諸条件を明かにし、殊に自動車部品の加工に用いることの可能性を示したものである。

本会は審査の結果その自動車工業に向上するための学術的に寄与せる功績顕著なるを認め第 7 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 32 年 5 月 10 日  
社団法人自動車技術会会長 竹崎瑞夫  
自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋

賞 状

1. はすばかさ歯車用双物の製作法

新三菱重工業株式会社京都製作所  
製造部第一機械課技術係長 出雲正敏君

右は自動車の最も重要な部品の一つであるはすばかさ歯車の歯切用双物の新工作法を発明し能率的で、しかも低廉な双物の国産化に成功し在来輸入に俟っていたものをこれにより置換え多くの自動車工場に供給し外貨の節約は勿論一般自動車にこの種の歯車の使用を促進するに到らした。

本会は審査の結果その自動車技術向上に寄与せる功績顕著なるを認め第 7 回自動車技術会賞を授与する。

昭和 32 年 5 月 10 日  
社団法人自動車技術会会長 竹崎瑞夫  
自動車技術会賞審査委員会委員長 川田正秋

感 謝 状

本会創立以来貴殿は自動車技術の進歩発達のために特別の寄与貢献をなし自動車技術会の基礎確立のために終始尽力され今日の隆盛をみるに至りましたことは誠に感激に堪えません。

本日ここに創立十周年記念式を挙げるに際してその顕著な功績に対して深甚なる感謝の意を表します。

昭和 32 年 5 月 10 日  
社団法人自動車技術会会長 竹崎瑞夫

祝 辞

本日ここに社団法人自動車技術会創立十周年記念式にあたり一言御祝辞を申し述べる機会をえましたことは私の深く喜びとするところであります。

自動車技術会は創立以来ゆみなく自動車に関する技術研究を続けられ最近における国産自動車の性能の飛躍的向上に資するところはきわめて大きいものであります。

また当事より委託事業としてお願いしました諸研究を行い工業標準の設定に協力する等その御努力は並々ならぬものと存じます。

今日の国産自動車工業の盛況を見るにあたって、あらためて深く敬意を表する次第であります。

しかしながら、先進欧米自動車工業は強大な生産量を背景として日夜技術の向上に専心しつつあります。中ずまでもなく自動車は国際競争のもつともはげしい商品でありまして、我国におきまして総力を結集して技術の向上につとめなければならないものと考えられます。この意味におきまして業界はもとより学会の権威者を網羅する自動車技術会の活動はまことに意義深いものでありまして、今後も旧に倍する御努力をお願い申し上げます。

簡単であります一言所感を述べて祝辞といたします。

昭和 32 年 5 月 10 日  
通商産業大臣 水田三喜男

祝 辞

本日ここに自動車技術会創立十周年の記念式を迎えるに当たり祝辞を申し述べる機会を得ましたことは、私の深く喜びとするところであります。

かえりみますに終戦直後の混乱状態の中において我国再建の足となるべき自動車の進歩発達を図るために先輩各位がここに自動車技術会を創設されましたことは、まことに先見の明、あきらかたものがあり、その後の目覚ましい御活躍と共に、深く敬意を表する次第であります。

戦時中から常に技術尊重という言葉が用いられて参りましたが、我国においては、とかく技術が軽視されがちであります。

しかしながら、自動車のようにあらゆる用途に広く、且つ大量に使用されますものの性能が、他國のものより若干でも低い場合には、結果的にみて國家も個人も莫大な損失を蒙ることとなります。しかも我國のように自動車の生産並びに使用に必要なる物資の大部分を輸入に仰いでおりますところでは欧米諸國に比へ格段の努力が必要であります。その不利な条件を克服し、僅か十年の間に國際水準まで向上せられましたことは、自動車技術会並びに関係者各位の御努力による所まことに大なるものがあると存じます。

現在我國の陸上輸送力の増強は、國家としても重要な課題の一つであり、この解決には、自動車によるところが極めて大であります。自動車交通の最も著しい隘路である道路については、高速自動車道その他の建設が逐次実施されようとしております。

これに伴い、自動車そのものにつきましても安全、且つ、経済的な高速度交通に適した立派なものが一日も早く使用者へ提供されることが必要であります。

この点から、技術会の活潑な活動に依存するところが極めて多いのでありまして、今後の御発展を専心より期待いたしまして、私の祝辞といたします。

昭和 32 年 5 月 10 日  
運輸大臣 宮沢胤勇

祝 辞

本日ここに自動車技術会創立十周年記念式が挙行されるにあたりまして祝辞を述べる機会を得ましたことはわたくしの深くよろこびとするところであります。

顧みますれば昭和 22 年にこの会が創立されたころのわが国はまだ戦後の窮乏と混乱の渦中においたのであります。この会がかかる情勢の中に工業再建の希望に燃えて立ち上がったわが自動車業界の総意に基き自動車科学技術全般の健全な発達を促進する目的のもとに結成されたのでありまして、その発展は各方面から多大の期待をもって迎えられたのであります。

それ以来会員各位の御努力によって会の事業は順調に発展し従来とかく科学技術振興の上の盲点とされてきた事業と研究との関連、業界と学界とのつながり等についてもこれが解決に向って着々と成果を収めるなど各種の事業をとおして科学技術の進歩と自動車工業の飛躍的発展のために大きな貢献をなしたのであります。

今や国力の復興に伴い業界産業界の各分野におたつてめざましい革新が行われつつありますときたまたまわが自動車技術会が創立十周年を迎えて基礎いよいよ堅く会員数も本部と二つの支部を合せて 3,600 余名に達し隆々たる盛運のうちに本日この記念式をあげ数々の記念行事を催されますことはまことに意義深く心からおよろこびを申し上げます。同時にまた関係各位の多年にわたる御努力に対し専心から敬意を表するものであります。

本日の式典にあたりこの会が創立以来わが国学産業界のために貢献された業績をたえてお祝を申し上げますとともに関係の皆様方の御努力によってこの会が今後ますます発展されることを祈つてやまない次第であります。

昭和 32 年 5 月 10 日  
文部大臣 灘尾弘吉

なお創立十周年にあたり報道方面において自動車技術会に協力された下記の人々に感謝状が贈られた。

為國香苗氏 (自動車週報社)  
肥田一郎氏 (日刊自動車新聞社)